

(4) 南 関 東



南関東地域では、景気は緩やかな回復基調が続いているが、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により、このところ弱い動きもみられる。

- ・ 鉱工業生産は消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあって、このところ弱含んでいる。
- ・ 個人消費は消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により、このところ弱めの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

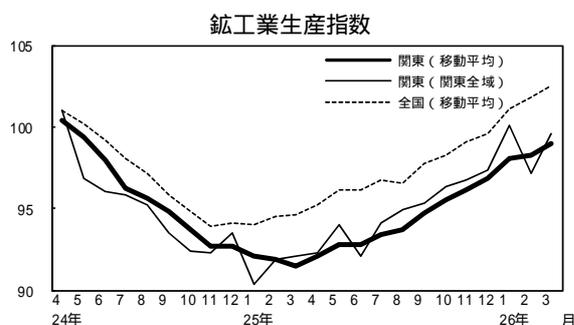
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 26 年 2 月)	今回 (平成 26 年 5 月)
景況判断	緩やかに回復しつつある	緩やかな回復基調が続いているが、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により、このところ弱い動きもみられる
鉱工業生産	緩やかに増加している	消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあって、このところ弱含んでいる
個人消費	緩やかな増加傾向にある	消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により、このところ弱めの動きがみられる
住宅建設	大幅に増加している	増加している

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあって、このところ弱含んでいる

輸送機械は大雪の影響を受けて減少する局面も見られたが、自動車用エンジン、駆動伝導・操縦装置部品や、主に北米向けの普通乗用車等が好調だったこともあり増加した。化学(除く医薬品)は、化粧品、ポリプロピレン等が好調で増加。電気機械は開閉制御装置、電気冷蔵庫が好調で、増加。情報通信機械は携帯電話の受注減が影響したこともあり、減少。生産用機械はショベル、クレーンなどで東北復興需要がみられこと等で、大幅に増加。



(備考) 1. 22年=100、季節調整値。最新月は速報値。
2. 全国及び関東の大線は後方3か月移動平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

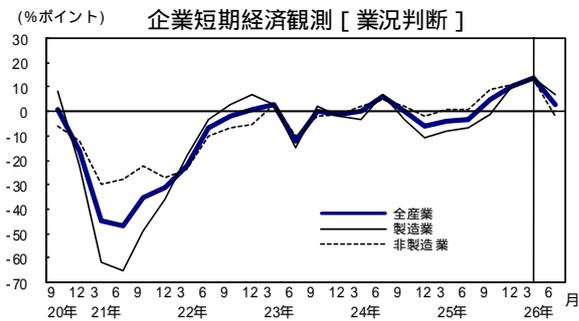
	付加価値 ウェイト	生産				
		10~12 月期	1~3 月期	1月	2月	3月
輸送機械	18.6	5.1	0.9	2.7	5.7	1.0
化学	15.1	2.9	-	2.7	3.9	-
電気機械	9.3	4.3	5.7	3.3	0.4	4.2
情報通信機械	6.2	6.2	1.2	2.2	0.9	7.7
生産用機械	6.1	4.3	15.0	14.1	0.5	0.3
鉱工業	100.0	2.1	2.3	2.8	2.9	2.5

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

2. 1~3月期、3月は速報値。月別の化学は、速報値では公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

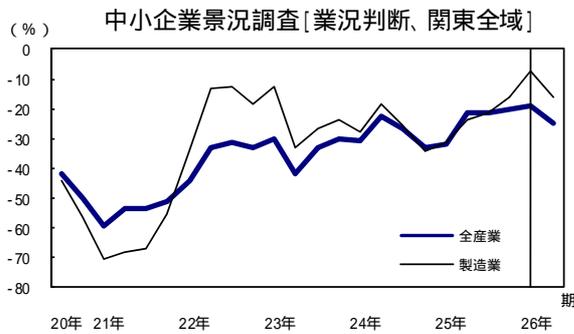
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。26年6月は予測。
日本銀行横浜支店管内。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
日本銀行横浜支店管内。

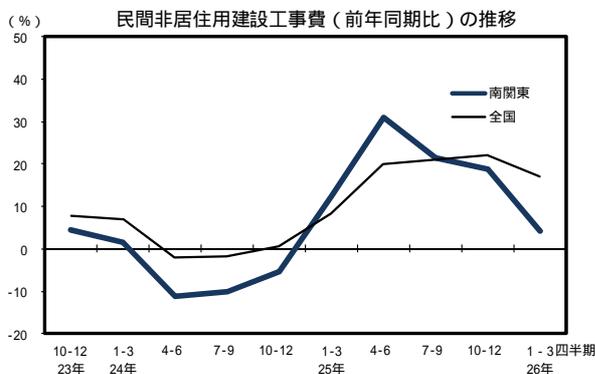


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。26年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

「消費税増税に伴う駆け込み需要の影響から、スーパーやガソリンスタンド等の小売業を中心に業況が悪化している(金融業)」などの回答もみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は増加している。



企業短期経済観測調査[設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	25年度実績見込み	26年度計画
全産業	2.3 (4.0)	0.2
製造業	2.6 (3.5)	1.3
非製造業	12.6 (4.8)	1.8

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。

日本銀行横浜支店管内。

(4) 南関東

2. 需要の動向

(1) 個人消費は消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により、このところ弱めの動きがみられる。

域別消費総合指数 (RDEI (消費))

1月は前月比0.1%増、2月は同0.2%増、3月は同6.9%増となった。

大型小売店販売額

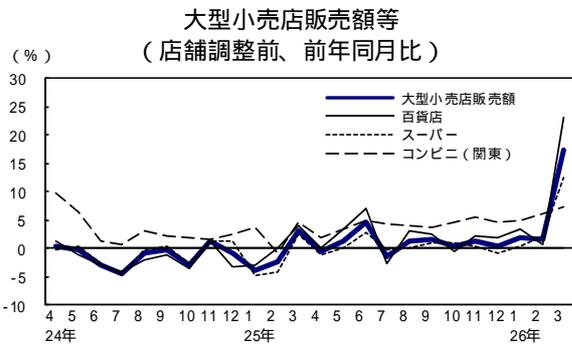
百貨店は、1、2月は高級時計・宝飾品等の「その他の商品」や高級ブランド品をはじめとした「身の回り品」等が好調だったことから前年を上回った。3月は「その他の商品」や「家庭用品」などで消費税増税前の駆け込み需要がみられ、前年を大幅に上回った。

スーパーは、化粧品、洗剤類等の「その他の商品」や「家庭用品」等で駆け込み需要がみられ、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (4月) [家計動向関連 (現状)]

南関東地域の家計動向関連DIは、40.5となり前月より19ポイント低下した。

「客は、消費税増税前の駆け込み需要の反動により当面は買い控えをしている様子で、今まで以上に価格にシビアになってきている (スーパー)」など「やや悪くなっている」とする回答が増加した。

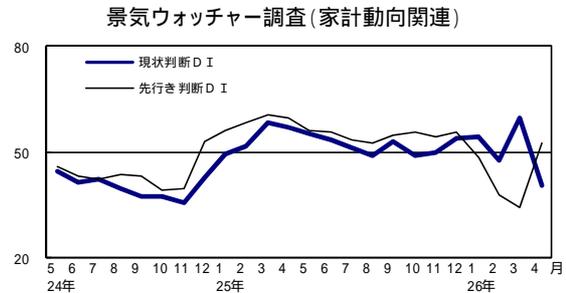
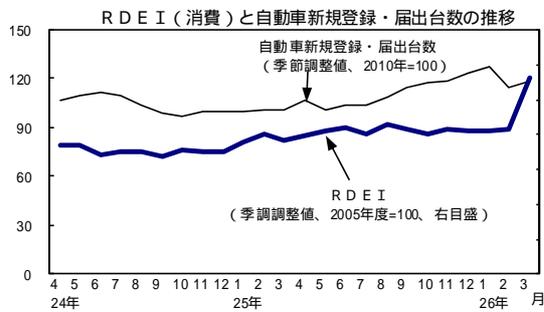


	26年1-3月	26年1月	2月	3月
RDEI (消費*1)	2.6	0.1	0.2	6.9
大型小売店(*2)	7.2	1.8	1.6	17.2
百貨店(*2)	9.7	3.3	0.8	22.9
スーパー(*2)	5.3	0.5	2.2	12.6
コンビニ(*2)	6.2	5.0	6.1	7.4
乗用車(*3)	19.6	31.3	13.8	16.8
(季節調整値)(*3)	0.0	2.9	10.3	3.5

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)、コンビニは関東全域

3. 乗用車は、新規登録・届出台数 (上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は増加している。

分譲が前年を下回ったものの、貸家が前年を上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は25年度累計で見ると前年度を上回っている。

